

パイロット



2022 Summer

Japan Aircraft Pilot Association



<https://www.japa.or.jp>



『公益社団法人 日本航空機操縦士協会のめざすもの』

1. 私達の活動の目的は、定款に定められた通り「航空技術の向上を図り、航空の安全確保につとめ航空知識の普及と諸般の調査研究を行い、もって我が国航空の健全な発展を促進する」ことです。
2. 私達は、定款の目的を踏まえ、将来のあるべき姿として「安全で誰からも信頼され、愛される航空を実現する」というビジョンを描いています。
3. 私達は、目的・ビジョンを達成するために下記を基本的指針に掲げて活動して行きます。
 - (1) 航空の安全文化を構築する。
(組織と個人が安全を最優先する気風や習慣を育て、社会全体で安全意識を高めて行くこと)
 - (2) 地球環境と航空の発展との調和を図る。
 - (3) 航空に携わるもの同士が心を通わせ共存共栄を図る。

パイロット

2022 Summer INDEX

03 就任のご挨拶 / 会長 進 俊則

04 第 57 回総会報告 / 事務局

05 第 58 期業務執行理事

06 新任理事紹介・第 58 期役員体制

07 専務理事挨拶 / 専務理事 池田 晃二

08 第1回 JAPA フォトコンテストを振り返って / 監事（前副会長） 中島 一郎

13 Be a pilot / エアライン委員長 田中 天兵

17 沖縄支部便り ～パイロットとしてアメリカアーティストビザを取得～
/ 沖縄支部長 太田 翔士

19 委員会活動報告 2022 年度第 1 回 RNAV 講演会 / ビジネス航空（BC）委員会

20 航空安全講習会報告 / 教育文化委員会 大澤 一郎

21 表彰報告

22 福利厚生を紹介

24 JAPA 案内・フォトコンテスト募集記事



会長挨拶 ～ 就任にあたって ～

進 俊 則



この度総会後の理事会にて推挙され会長に就任することになりました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。また井上前会長におかれましては、副会長の4年間を含めて8年という長きにわたりリーダーとして協会運営に携わって頂きました。心より御礼申し上げます、ありがとうございました。

当協会は1957年の設立から今年で66年目になります。会員数は約6,700名(2022年3月末時点)、2019年以降若干減少傾向になっています。今回選任された理事、監事と共に力を合わせて協会を運営し、航空界の発展に貢献すべく努力をしていく所存です。

4月23日、知床で遊覧船の痛ましい事故が起きました。行方不明の方もまだ多数おられますが、犠牲者の中には3歳の女の子もいました。

強風波浪注意報が出ている状況で出港した船長の責任は重大ですが、報道されている事が事実であれば、組織事故と言えます。

当協会定款第3条(目的)には、本協会は航空技術の向上を図り、航空の安全確保につとめ航空知識の普及と諸般の調査研究を行い、もって我が国航空の健全な発展に寄与することを目的とする、とあります。今一度この目的を振り返り、会員の皆さんと今後の協会運営を考えてみたいと思います。

安全対策や安全文化の醸成などは個社、団体、個人によるものが殆どですが、中にはその範疇に入らない内容もあり、様々な場で操縦士協会としての意見表明をすることが、協会の大きな存在意義でもあると思っています。

2019年冬に中国武漢で発生したCOVID-19は、世界中がパンデミックに陥り未だに終息していません。この2年半、世の中の動きや働き方は大きく変化しました。そして今年2月ロシアのウクライナ侵攻により、更に変化が増幅されました。地球温暖化によるそれぞれの地域での異常気象も、大きな変化の一部と言えるでしょう。

コンサルティング業界などで良く使われる、現代はVUCAの時代という言葉があります。変動性、不確実性、複雑性、曖昧性(Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity)の頭文字を連ねたものです。要は先行きが不透明で将来の予測が困難な状態を指します。正にそんな時代に突入した感があります。

AIが急速に進化し、全人類の知能を\$1,000のLaptopが上回る技術的特異点(シンギュラリティ)が2045年頃と予測する専門家もいます。AIは単に人間の代替労働としてだけでなく、医療や軍事にも利用されるでしょう。人間の知性を超えたAIを如何に制御し人類の発展に役立てるかの議論も始まるでしょう。

我々の次の世代は、どんな時代になるのでしょうか。航空界にはどんな変化が待っているのでしょうか。

話が拡散してしまいましたが、大きく変化する世界を生き延びるには大胆な発想、行動力が必要です。私は今までの慣習や常識に捕らわれることなく、変化も厭わない協会運営をやっていきたいと思います。会員の皆様をはじめ関係各位のご支援ご協力をお願い致します。



第57回通常総会開催報告

去る2022年6月17日(金)に羽田空港第3ターミナルビル4階「TIAT SKY HALL」で第57回通常総会を開催しました。

前回・前々回に引き続き、今回の総会も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点で、代議員と理事を除く会員に対しては、極力出席をお控えいただくよう事前をお願いしたうえで開催しました。

総会開催に先立ち協会長表彰の表彰式が行われ、計6名の方々に対し記念の盾が授与されました(都合により1名欠席)。その後、議長を務める井上会長より総会開会宣言が行われ、第57回通常総会が代議員全員の出席により定足数を満たし、成立していることを事務局が報告しました。



◇代議員総数50人、出席代議員数50人(実出席27人、議決権行使書提出21人、委任状提出2人)

冒頭で井上伸一会長が挨拶に立ち、ここ暫く新型コロナウイルス感染症の陽性者数も落ち着きを見せているが、2020年1月から始まったコロナウイルス禍により航空界、中でもエアラインは大きな影響を受け、当然ながら操縦士にもその影響は及んでいること、当協会も会員数の減少という形で影響を受けていること、一方で直近では1日の入国者数の上限を増加させるなど、社会活動も少しずつコロナ以前の状態に戻りつつあることから、1日も早く航空界が元気になることを願っている旨の挨拶がありました。

このあと議事録署名人に石井清代議員・寺島祐代議員の2名が選任され、議案の審議に入りました。

議案

審議事項

第1号議案 令和3年度事業報告及び決算報告について議案書の通り承認されました。

第2号議案 役員の選任について議案書の通り承認されました。

報告事項

令和4年度事業計画及び予算について議案書の通り報告されました。

質疑応答においては、「事業計画にある『会員制度の見直し』とは?」「3月に実施された内閣府立入検査での指摘事項は?」「調布飛行場のR-NAVアプローチを認めてもらうよう働きかけをしてほしい」「FTDの航空局認定レベルⅢの再取得推進を望む」などの意見・質問が、出席した代議員に加え一般会員からもmailで寄せられました。

各業務執行理事より、

- 「会員制度の見直し」は、中長期的な会費収入の減少に備え、新規会員獲得に向け努力すると共に、終身会員への移行時期について社会情勢を踏まえた検討を行う。
- 立入検査では会費収入の会計処理方法について2点指摘があり、会計士とも相談のうえ、内閣府に対して3月中に回答済みである。
- JAPAとしては、調布飛行場運営に関わる各種会議において、同飛行場の地域特性や公共性等を踏まえたうえで設定されたAIP記載事項、並びにローカルルールを遵守するべきであると考えている。同飛行場管理事務所からも同主旨の文書が出ている。
- FTD認定返納は、裾野拡大・技術習熟支援というJAPAの事業目的に照らし、理事会等での議論を経たうえで組織決定したものであり、認定の再取得は行わない。

との説明がありました。

議案の審議が尽くされたところで、中島一郎副会長より閉会の挨拶がありました。続いて第58期理事より自己紹介があり、その後議長が閉会を宣言し、閉会となりました。

なお総会後の懇親会は、現下のコロナ禍の状況に鑑み、今年も中止と致しました。



第58期業務執行理事紹介



①趣味・特技・最近ハマっていること ②今までで一番感動した場所・その理由 ③抱負

副会長
畑辺 三千夫



- ①退職後に取得した2輪免許でバイクツーリング。一向に上達しないギター教室通い。成果の出ないダイエット。
- ②ドイツロマンティック街道・歴史に育まれた風景
- ③航空の裾野拡大と会員目線の協会運営を目指して、引き続き務めさせていただきます。ご協力の程をよろしくお願い致します。

副会長
田中 康浩



- ①趣味はゴルフです。最近ハマっていることは、シミュレーションゴルフで練習する事です。
- ②ニューヨークJFK空港、ANA B777にてラストフライトをした場所で放水アーチの中、TAXIした。
- ③初めての事ばかりで、不安がいっぱいですが、お役に立てるように努力します。

副会長
大澤 一郎



- ①登山
- ②北アルプス縦走時の素晴らしい眺望
- ③この度、理事・副会長に就任いたしました大澤 一郎と申します。
今期で副会長職は3期目となりますが、引き続き会員の皆様のご支援を賜りながら小型航空機の安全の普及と啓発や様々な課題に取り組んで行きたいと考えております。
どうぞよろしくお願い致します。

常務理事
安藤 尚敏



- ①ゴルフ（上達のために常に研究をしています）
- ②スミソニアン博物館（ワシントン ダレス）
- ③JAPAビジネス航空委員会では、ドローンや空飛ぶクルマなどの出現により低高度空域をいかに安全に維持していくかを課題に、関連会議への出席と安全への提言を行ってきたいと思います。

常務理事
板垣 英樹



- ①ゴルフ（次のステージへ!）、草野球（そろそろ引退か?!）、サイクリング（体力維持に役!時には新橋まで出動に使います!）
- ②ホノルル便乗務時、夜明け前にコックピットから、下弦の月と惑星（金星、木星、火星、土星）が一列に並んでいる天体ショーを見る事ができたこと。壮大な宇宙の営みを目の当たりにし、地球、人間もその一部であり、世界平和と自然環境の大切さを実感したため。
- ③JALで767に乗務しています。常務理事3期目となり、昨年度より広報企画委員長を兼務しております。広報企画委員会では、パイロット誌、PILOT手帳、JAPAカレンダーといった定例の出版物の編集発行に加え、今年度は、PILOT手帳資料編やe-journal等の電子化とタブレット端末でのオフライン閲覧ができるように、現在アプリの導入準備を進めています。この取り組みを通じて、全てのJAPA会員パイロットの方々の利便性が高まり、知識のUPDATEがより行いやすくなることを目指しております。今期もよろしくお願い致します。

常務理事
早乙女 一成



- ①最近特にコーヒーにハマっています。
そろそろ焙煎に手を出そうか思案中・・・
- ②子どもの頃、生まれて初めて乗った飛行機の座席での離陸時の瞬間。
離陸時の加速で体がシートに押さえつけられた感覚が忘れられません。
- ③今後とも引き続き、他の理事や事務局の方々と協力しながら、少しでも皆さんの航空安全に寄与できますよう微力ながら頑張っていきたいと思っています。

常務理事
管 聖



- ①ジョギング、温泉
- ②屋久島 自然豊かなところ
- ③この度常務理事に再任しました管 聖（すがよし）です。
ジェネラルアビエーション（GA）委員会を担当しております。
前期に引き続き小型機を中心とした航空文化の裾野拡大・航空安全そして航空スポーツの普及振興のため、微力ながら尽力させていただき所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

常務理事
山村 洋司



- ①食べ歩き・ステイ先での半身浴・YouTube
- ②カナダ上空で見たオーロラ。その理由／オーロラが躍動する龍の如く、動いていた。
- ③JAPAの公益目的事業である、航空文化の普及と啓発、安全対策、情報伝達の提供、情報収集及び調査研究、技能習熟の支援に対し、前期から引き続きJAPAの乗員養成検討委員会、学科試験問題検討会、広報活動を通して皆様のお役に立てるように、引き続き努力していきたいと思っています。よろしくお願い致します。



第58期新任理事紹介



①趣味・特技 ②今までで一番感動した場所・その理由 ③抱負

理事

小野 和彦



①ウインドサーフィンなどのマリンスポーツ、料理、ゴルフ
②生コンのバケットが揺れることなく、スパッと定位置に収まる。薬剤散布で、燃料補給のための駐道のヘリポートにスキッドの跡が、いつも同じ位置に2本しかない。
③この度、理事を拝命いたしました小野和彦です。JAPAでの活動としては、FTD教官として、航空機の運航への学び方などを伝えてきました。今後も裾野拡大、航空界の安全に寄与できるよう微力ながら尽力させていただきますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

理事

須山 忠



①写真撮影、ジョギング、最近ではトレイルランニングに挑戦しようと思っています。
②今から28年前の初めての都内夜間飛行は夜景がとても綺麗で感動しました。その時から比べると、高層ビルが増えましたが、今ではすっかり見慣れた景色となりました。
③この度理事を務めさせていただくことになりました須山と申します。これまで警察航空隊員として乗務してまいりました。航空安全を第一に、協会の目的・ビジョン達成を促進するために、微力ながら貢献できればと思います。どうぞよろしくお願い致します。

理事

真木 賢一



①ウイングサーフィン、ウインドサーフィンよりも体力面や持ち運びに手軽で、不思議な浮遊感を味わえます。
②砕氷艦 初代「しらせ」甲板から見たアデリーペンギンの大群。氷海を「しらせ」が通り、道のように空いた水面から数えきれないほどのペンギンが氷海に出てきました。浮上後は営巣地を目指して列をなして歩く彼らの姿に感動しました。
③この度、中部支部からご推薦いただきました真木 賢一です。学生時代に飛行機の訓練を受けた後は、30数年ヘリコプターに乗り、農薬散布、写真撮影、物資輸送、防災ヘリ運航などを経験してきました。JAPAの活動はアマチュアからプロ、そして空を目指す方と、ひろく空に関わりたい方たちへの情報発信や空の楽しみを広げる場です。今後は理事として航空の安全や発展に微力ながらお役に立ちたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

理事

三浦 雄児



①ゴルフ、放送大学受講
②ソロフライトでの種子島飛行機のすばらしさを実感しました。
③沖縄支部にて活動しております三浦です。病気のため乗務離脱となり、昨年度は基礎座学、CRM、CBTAIに関わる仕事をしていく中で多くの学びがありました。若輩者でございますが、みなさまのご意見をしっかりと聞き、操縦士協会の活動がより盛り上がっていくよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

第58期 役員体制

会 長 進 俊則 (新任)	副会長 畑辺三千夫 (新任)	副会長 田中 康浩 (新任)	副会長 大澤 一郎	専務理事 池田 晃二 (新任)
常務理事 安藤 尚敏	常務理事 板垣 英樹	常務理事 早乙女 一成	常務理事 管 聖	常務理事 山村 洋司
理 事 安東 広壮	理 事 五十嵐 教夫	理 事 植田 展生	理 事 大里 将之	理 事 小野 和彦 (新任)
理 事 慶田 竜也	理 事 佐野 克彦	理 事 須山 忠 (新任)	理 事 高橋 清彦	理 事 多賀 敬祐
理 事 田中 天兵	理 事 中田 浩司	理 事 本田 厚	理 事 三好 恒紀	理 事 真木 賢一 (新任)
理 事 三浦 雄児 (新任)	理 事 若谷 哲也	監 事 志鳥 學修	監 事 中島 一郎 (新任)	

専務理事挨拶 ～ 就任挨拶 ～ 池田 晃二



この度、総会後の理事会で推挙され専務理事に就任致しました。会員の皆様と力を合わせ協会の運営、航空界の発展に貢献すべく努力をしていく所存です。会員の皆様のご協力と活動参加、行政当局、関係諸団体、関係企業の皆様のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が続いていますが2030年問題を筆頭に既にパイロット不足が始まっています。

航空機操縦士養成連絡協議会に裾野拡大ワーキンググループがあるように当協会でも裾野拡大の重要性を感じています。また女性の航空界への進出促進も重要な課題です。その為各支部、各委員会と協力しスカイスクエア、Fly with us～空の仕事ワークショップ～、Be a pilot、女性航空教室、FTDとポータブルFTDを利用した体験搭乗等を開催しパイロットのみならず航空業界への進出のお手伝いをしています。裾野拡大行事に参加された方からも重要性を痛感したとの声を多く頂いています。今後も従来の行事の他に新たな取り組みを実施致します。他に航空の安全文化の普及と啓発については運航関係者に対して飛行方式・航空気象・航空管制などの運航に必要な内容について解説することにより知識の理解及び再確認を目的として開催する航空安全セミナーの開催、関係省庁主催委員会へ委員の積極的な派遣、操縦士養成連絡協議会の事務局を継続して実施致します。

安全対策(制度と運用)については健康管理に携わる方々への情報提供を目的として(一財)航空医学研究センターが主催しJAPAが共催団体となり航空局、エアライン、使用事業、医療機関等が参加される航空医学適性セミナーへの参加、学科試験問題検討会、自家用操縦士の皆様の安全知識の習得、安全意識の向上の為に航空安全講習会の実施、VOICESへの参画及び情報提供を引き続き実施していきます。

情報(知識)の伝達と提供については小型航空機操縦士を対象に必要なかつ有益な航空知識と最新の

航空情報を伝え小型航空機の事故防止をはかる事を目的とする小型機セーフティセミナーの実施、「ATS」「航空気象」「フライトテスト」の夫々のシンポジウムの開催、事業用と自家用操縦士の方へのTEM/CRMセミナー、SRMセミナー、企業や団体に対してのCRM出張セミナーの実施、「区分航空図」「スタディガイド」「AIM-J」等の参考文献及び教材提供、「ホームページ」「パイロット誌」「メールマガジン」等を用いた航空情報の提供や航空身体検査Q&Aを継続実施致します。

技術習熟の支援についてはRNAV講演会、FTDを使用したポイントレッスンを実施致します。また航空業界における情報収集、諸研究のフィードバック、会員の方への福利厚生、表彰関連事業を実施致します。また会員の皆様の利便性向上の為に、デジタル化を推進致します。

この様にJAPAの活動は多岐に渡りますが皆様のご協力とご支援を基に鋭意取り組んでまいります。皆様からのご意見ご要望も是非お願い致します。



第1回JAPAフォトコンテストを振り返って

監事(前副会長) 中島 一郎

日本航空機操縦士協会では昨年度、第1回目となるフォトコンテストを開催いたしました。JAPAにとっては初めてのイベントであるため試行錯誤しながらの実施となりましたが、関係各位のご協力により何とか無事に終了することができました。この誌面をお借りして、応募された方、会員、事務局を始めとする関係者の皆様のご協力に心より感謝いたします。



フォトコンテスト開催の経緯

操縦士協会では2019年まで航空やエコをテーマにした川柳コンテストを実施してきました。入賞した作品は毎年末に発行されるパイロット手帳に掲載され、多くのパイロットに親しまれてきました。ところがその後発生した新型コロナウイルスの影響により2020年の実施を断念することになりました。その後新たに立ち上げられた教育文化委員会において川柳に代わるイベントが検討され、より航空に親和性のある“航空機を対象にしたフォトコンテスト”を実施することが決まりました。

フォトコンテストの目的

目的は応募される皆様に航空への親しみを感じていただくことです。特に若い方々に空の楽しさ、操縦の楽しさを体感していただき、航空に興味を持ってもらうという、いわゆる“航空のすそ野を拡大する”ことが大きな目的です。これはJAPAの活動目的の大きな部分を占めており、この観点から募集は大学生以上の“一般の部”と高校生以下の“学生の部”に分けて行い、審査・表彰もそれぞれに分けて実施しました。

フォトコンテストの概要

テーマは「私の好きな飛行機」とし、応募期間は10月1日から11月20日までの50日間としました。賞品については一般の部、学生の部それぞれ最優秀賞1名、優秀賞2名、審査員奨励賞3名とし、クオカードとともにシミュレーター(FTD)の体験搭乗1時間を副賞として用意しました。さらに学生の部に応募された方の中から抽選で5名様に、シミュレーター(FTD)に体験搭乗できるJAPA特別賞も用意しました。このシミュレーター(FTD)の体験搭乗はJAPAならではの副賞として、他のフォトコンテストにはない特色となりました。

実施準備の苦労など

応募規約などを入れた募集要項を作成するにあたり、フォトコンテストの経験が全くなかったため手探り状態が続きましたが、審査委員や顧問弁護士のご意見などを伺いながら、締め切り直前で何とか作成することができました。また募集開始に向けて航空雑誌への広告文掲載や、公募サイトへの掲載依頼など準備作業を慌ただしく行いました。

一般の部 最優秀賞



薄網 弘久さん

学生の部 最優秀賞

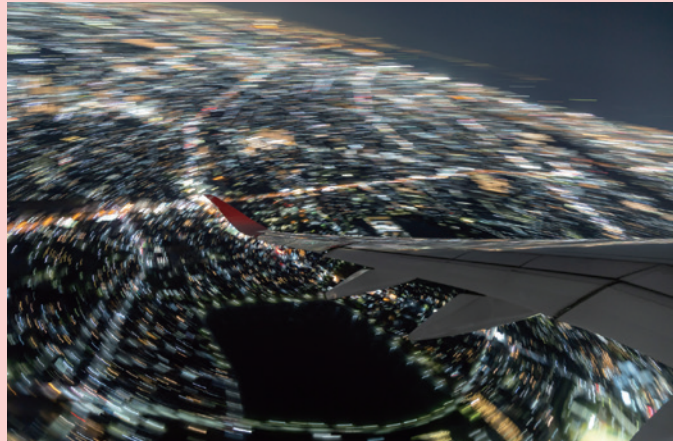


香取 正義さん



一般の部 優秀賞

津田 篤志さん



植田 聖さん



学生の部 優秀賞

上里 熙さん



片岡 龍之介さん

応募を増やすための工夫

10月から始まった募集ですが、当初は予想以上に応募が少なく、特に若い方からの応募がほとんどない状況が続きました。初めての開催でありフォトコンテストに関するJAPAの知名度が低いことは予想していたものの、あまりの少なさに夜眠れない日が続きました。急遽見やすいパンフレットを作成して関係団体などに配布しましたが、なかなか応募数が増えません。思いあぐねて、ある晴れた週末に羽田空港のターミナル屋上で望遠カメラを構える航空写真愛好家の方々に頭を下げながら直接パンフレットを配布して回ったことが思い出されます。そのような取り組みが功を奏したのか、募集締め切りの直前には毎日のように応募の封筒が届き、大きく安堵した経験が忘れられません。最終的に応募者数は142名(内 高校生以下44名、一般98名)、応募作品349枚となりました。最少年齢の方は4歳、最高齢は84歳の方でした。

審査と発表

11月25日に協会会議室において井上伸一会長出席の元、航空写真家の青木勝氏をはじめ3名の審査委員による厳正な審査が行われ、各章の受賞者が決定されました。その後受賞者へご連絡するとともに、JAPAホームページに受賞作品を掲載し、併せて協会事務所のラウンジに受賞作品を展示しました。展示作品は今でも協会を訪れた皆様の目を楽かせています。

一般の部 審査員奨励賞



槇山 崇さん



斎藤 憲弘さん



小泉 元さん

シミュレーター(FTD)の操縦体験

年末から希望する受賞者の方にシミュレーター(FTD)の体験搭乗を開始しました。ご家族やご友人と一緒に約1時間操縦を体験していただき、皆様大変喜んでおられました。若い方の中には「これからパイロットを目指そうと思います」と嬉しい決意表明を行ってくれた方も複数おられます。JAPAしか提供することのできないシミュレーター(FTD)の操縦体験を通じて、皆様に空の楽しさ、操縦の楽しさを感じてもらえたと思います。また会員にとりましても、自分の協力が航空のすそ野拡大につながっていると実感できたイベントとなりました。

今後に向けて

3月の教育文化委員会において、今年度も2回目のフォトコンテストを実施することが決定しました。1回目の実施により細かな反省点も見えてきましたので、今年はより多くの皆様に空の楽しさを実感していただけるようなフォトコンテストにしていきたいと思います。7月頃にはJAPAホームページに募集要項を掲載する予定ですので、このパイロット誌をご覧の皆様も、ご家族、ご友人にお声がけいただけますと幸いです。

学生の部 審査員奨励賞



松吉 慧士さん



金田 真人さん



遠矢 奨太郎さん

Be a pilot

エアライン委員長 田中 天兵

エアライン委員会が新たな活動を開始しました。パイロットの魅力を若い人に向けて発信するプロジェクト「Be a pilot」です。プロジェクトの目指すところとは？実際に何をするのか？を紹介するとともに、先日行われた初めてのイベントであるオンライン座談会の様子を報告します。

Be a pilotプロジェクトについて

「Be a pilot」は、パイロット自らが若い世代の人に向けてパイロットの魅力を発信していく活動を総称したプロジェクトです。

パイロットになる方法はさまざまな媒体で知ることができるようになってきました。一方でパイロットの仕事の魅力を発信するものはあまりありません。「パイロットって楽しい」「面白そう」「パイロットになりたい！」そう思ってもらえる人を一人でも増やしたい、という思いでこの1年間企画を温めてきました。

協会ではこれまでも若い世代をターゲットにしたイベントを開催してきました。幼稚園児や小学生と接すると、みんな憧れの眼差しでパイロットを見つめています。「大きくなったらパイロットになりたい！」という声も多く聞くことができます。しかし、大学生と話をするとう「パイロットはすごいと思うけど、難しそう」「特殊な人しかねないんでしょ」「私には到底無理です」という声に変わってしまいます。小さい頃にはパイロットは憧れの職業でも、成長するうちにその憧れから離れていってしまう、そんな様子を間近で見してきました。

せっかくパイロットになる方法が広がりつつあるのに、肝心の若い人たちがパイロットに興味を持ってくれない。そんな状況に危機感を抱き、エアライン委員会は若い世代にパイロットの魅力を発信するプロジェクトに着手しました。

確かにパイロットになるのは難しいことかもしれません。パイロットの絶対数も多くはないので特殊な人になるというイメージもあるかもしれません。でも、パイロットである私たちは知っています。自分達が特殊な人間ではないことを。最初から飛行機を飛ばせる人なんていないことを。どんなに高い壁だと思えたとしても、小さなステップを1つずつクリアした先には大きな壁を越えられるということを。また、パイロットは難しい、と思われがちな一方で、「パイロットって自動操縦で飛ばして、マニュアル通りのことしかできないんでしょ？もっとクリエイティブな仕事がしたい」という学生も少なからずいました。でも、パイロットである私たちは知っています。同じように見えるフライトでも、ひとつとして同じ状況はないことを。自然環境を相手に安全なフライトを完遂するミッションの困難さを。そして、その困難なミッションを自分の能力を注いで達成できた時の何事にも変え難い喜びを。そういったことをパイロットが自ら発信していく“場”が必要だと思いました。その“場”として、Be a pilotが生まれました。

ご存じのように、協会には多種多様なバックグラウンドを持ったパイロットが所属しています。パイロットとして活躍するフィールドが違えば、パイロットになるために通ってきた道のりも異なります。パイロットを身近に感じてもらうため、パイロットの魅力を多角的に発信することができるのはJAPAにおいて他にはない、という思いで私たちは立ち上がりました。



旅立ちをイメージしたロゴマーク

Be a pilot初イベント「オンライン座談会Talk with us」開催報告

続いてBe a pilot初のイベント「オンライン座談会Talk with us」を開催しましたので、その様子を報告します。

2022年3月19日にJAPA会議室に現役エアラインパイロット2名をお迎えし、司会(私)とともに座談会を実施し、その様子をオンラインでリアルタイム配信しました。参加対象は小学生から大学生までの年代で、110名の方にご参加いただきました。オンラインでの開催でしたが、パイロットを身近に感じてもらうためには双方向のコミュニケーションが欠かせないと考え、参加者に関心のあるテーマを投票してもらったり、質問をチャットで募集したりとオンライン配信の機能を活用しました。

現役パイロットと話ができることが最大の特長である今回のイベント名称は「Talk with us」と名付けました。質疑応答に1時間を用意して「NG質問はありません!」と事前に周知しましたので、一体どんな質問がくるのか、こちらもドキドキです。そこで登壇者のパイロットお二人はバックグラウンドの異なる方をお呼びしました。所属の会社(JALとANA)も違えば、出身ソース(自社養成と航大)も異なるお二人です。将棋でいえばまさに飛車と角。タテ・ヨコ・ナナメ、どんな質問にも答えられるように待ち構えました。

トークを繰り広げるにあたって私たち配信側が気をつけたことは、インターネットや本に載っているようなパイロット豆知識を発信するのではなく、現役のパイロットだからこそ伝えられる情報「+α」を届けることです。その「+α」とはなにか?一例をあげると、パイロットの仕事にかける想いや大変だった訓練の経験、これからのパイロットのあり方についての考え、といったものです。このような想い、経験、考えというものは、きっとパイロットの数だけあるでしょう。正解はありません。それでも、パイロットが顔を出して、ご自身の想い、経験、考えを直接学生に語りかけることで伝わることもある、と思い今回のイベントを進めていきました。



配信開始前、緊張した面持ちの3人

“Talk with us”当日の様子

2022年3月19日、照明を落とした薄暗いJAPAの会議室に集まった4人(パネリスト2人、司会、サポート)は、緊張の面持ちでイベントの開始を待っていました。なぜ会議室の照明を消しているのか、というと画面越しに蛍光灯のチラツキが気になってしまうからです。これまでも大きな会場に学生を集めてイベントを行うことはありましたが、オンライン配信は初めてです。心配の種は照明だけではなく。カメラのアングルは?音声の環境は?インターネットの接続は?試行錯誤の連続です。大きな会場で開催するイベントは大勢の学生を前にする緊張感がありますが、今回のオンライン配信は一味違った緊張感の中で開始を迎えることとなりました。

開始時間になりカメラに向かって話し始めるものの、画面越しの学生に声が届いているのか不安で仕方ありません。私たち登壇者の表情にも不安がありありと出ていたはずですが、しかし、イベント冒頭に「どの都道府県から視聴しているかチャットでお知らせください」と呼びかけると、数秒のうちにたくさんの反応が返ってきました。画面越しにたくさんの学生がしてくれている、話がちゃんと伝わっている、それだけのことでありましたが、その事実が登壇者の私たちを勇気づけてくれました。さらに嬉しいことには、学生の皆さんが日本全国から参加してくれていたことです。中にはアメリカから参加の学生もいました(時差は大丈夫だったんでしょうか?)。離れた場所からでも参加できるオンライン配信ならではの良さを感じることができました。その後も「興味のあるテーマはなんですか?」という投票を実施して、学生の反応を次々と感じながら、JAPA会議室にも少しずつ熱がこもっていきました。

前半1時間はパネリストの経歴や普段のスケジュールなどをもとに、訓練のこと、生活のこと、仕事のことを中心にトークしました。後半1時間がメインイベントの質疑応答です。1時間という時間を用意したものの学生から質問が出なかった時に備えて、時間に困った時のトークネタも用意しておりました。しかし、フタを開けてみると、そんな心配はどこへやら。矢継ぎ早に質問が寄せられてきます。匿名でチャットに書き込むだけで質問できるという手軽さが良かったのかもしれません。質問の数は実に204件になり、ともすれば質問の波に飲み込まれそうなほどで、参加学生の熱気を強く感じました。参加者が匿名で質問できるメリットは他にもあり、それは学生が抱えている本音の悩みも相談できる、ということです。例えば「パイロットを目指していますが、親からは現実が見えてないと言われてしまいました。パイロットの現実ってどのようなものなのでしょうか?」というような質問があったり、身体検査に影響する体の悩みに関する質問もありました。たくさんの質問が寄せられたからといって、それらをパパッと回答して処理していくという扱いはできません。一つ一つの質問に学生の悩み、不安、希望、夢が詰まっています。パネリストのお二人にはどの質問にも丁寧に回答をしていただきました。ただ、さすがに1時間という時間では全ての質問にお答えすることはできず、回答しきれなかった質問には後日書面で回答するお約束をすることとなりました(A4サイズで31枚と大がかりなQ&Aとなりましたが既に参加者皆様にお届けしております)。

ちなみに、NG質問なし!と参加学生にはお伝えしておりましたが、無事に全ての質問にお答えできたことをここにご報告致します。

“Talk with us”を終えて

イベント後のアンケートにも多くの声が寄せられました。現役パイロットが本音を語ったこと、質疑応答の時間を長く took ことなどを中心に多くの方に満足していただけたようです。ただ、音声割れが起きてしまい聞き取りづらくなってしまったという課題も見つかりましたので、必ず克服して次回以降に繋げていきたいと思えます。

学生と双方向のコミュニケーションをとったことで、学生の興味関心がどこにあるのかだけではなく、たくさんの不安を持っていること、そしてそれ以上の夢や希望を持っていることを知ることができました。私たちは、次はどんなイベントが良いだろうか?とさっそく議論を始めています。今後も様々なイベントを企画していきますので、新プロジェクト Be a pilotにご注目ください。今後のイベントはJAPAホームページならびにBe a pilot専用Webサイトにてお知らせします。(https://be-a-pilot.japa.or.jp)

イベント中に参加学生から寄せられた質問の一部をご紹介します

- ◆パイロットになると家で家族と過ごす時間は少なくなりますか?
- ◆パイロットに求められる力、大切な力はなんだと思いますか?
- ◆頭の良さは必要ですか?
- ◆機長と副操縦士の間に上下関係はありますか?
- ◆飛行中は暇ではありませんか?
- ◆パイロットになるにはどれくらいの費用がかかりますか?
- ◆訓練フェイルになる要因はどんなことがありますか?
- ◆ぼくは小学生ですがなにをがんばればいいですか?
- ◆これからもパイロットの職はあり続けると思えますか?

パネリストのご感想

オンラインであることから、一方通行のセミナーになってしまわないよう心掛けました。アンケート機能やチャット機能といったオンラインならではの機能を活用して頂いたお陰で、参加されている皆さんが何を求めているのかを想像しながらお話することができました。

結果的に後半1時間の質問コーナーで204件もの質問が出たことを考えると、オンラインセミナーの長所が出たのではないかと考えています。今後、パイロットに興味を持っている方々に向けて、セミナー等の参加の入り口としてとても良いものであったと感じています。

この場を借りて、企画、立案、司会を担当された田中さんに感謝申し上げます。



大脇崇豪さん

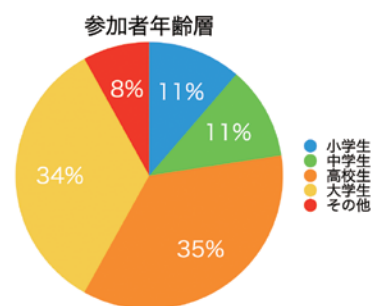
オンライン座談会ということで、画面の向こう側にいる学生さんたちの顔を思い浮かべて、“なるべく本音で語る”ということを心がけました。就職活動で心がけていたこと、訓練生時代の経験などをお話するにつれて、嬉しかったことや辛かった記憶が色々とよみがえり、自分自身初心にかえて今の仕事を見直す良い機会となりました。また学生さんたちからその場ではすべて答えることが出来ないほどたくさんの質問を頂き、パイロットという仕事に対する熱意を強く感じました。今回のセミナーが少しでもお役に立てたなら幸いです。

参加学生のアンケート結果の一部をご紹介します

イベントに満足している・・・97%

イベントを通じてパイロットを身近に感じられるようになった・・・84%

イベントを通じてパイロットの志望度が上がった・・・97%



その他コメント

- 2時間も現役の方の話を聞けて大変勉強になりました。本音ベースの話も聞けてリアルなパイロットを少し知れたかなと思います。1時間Q&Aはなかなかないのでとても貴重でした。
- ここでしか聞けないような赤裸々トークやネット上にはない現場の生の声を聞くことができ、とても楽しく勉強になる2時間でした。
- ウェブだけでは分からない色々なお話を聞くことができとても参考になりました。一方的に視聴するだけでなく質問ができる参加型であったのも良かったと思います。

沖縄支部便り ～パイロットとしてアメリカアーティストビザを取得～

沖縄支部長 太田 翔士

JAPA沖縄支部委員の玉那覇尚也さんが、アメリカの「アーティストビザ」を取得されたというニュースが届きました。アーティストビザは、科学や教育、事業、スポーツの分野における顕著な外国人や芸術、映画、テレビで優れた才能を持つ人に発行されます。

玉那覇さんは教育分野（航空教育）という領域において卓越した能力を有するということを航空大国アメリカに認められたということになります。

JAPA安全講習会の講師としても国内の航空教育に尽力されている玉那覇さんに、アーティストビザを取得するまでの道のりと今後の活動、そして同じ夢を目指す方々へのアドバイスを伺いました。

インタビュー：沖縄支部前支部長 屋良 朝義



Q1.アーティストビザ取得おめでとうございます。

ありがとうございます。JAPAとの関わりがあった事も今回も就労ビザ取得に繋がる事ができました。JAPA安全講習会やJAPA沖縄支部での活動、在沖米軍嘉手納飛行クラブとのコラボ活動を通して、私が長年研究実践していたFTD教育事業他多くのことがこのような形で認められるとは夢にも思いませんでした。JAPA会員として勉強でき、JAPA沖縄支部委員として活動できた結果の賜物です。JAPA元副会長の小林様から推薦状を書いていただきました。感謝申し上げます。

Q2.アーティストビザは取得が難しいと聞いています。どのくらい大変なものなのでしょうか？

正式にはO1ビザと呼ばれるのですが、卓越した能力を書類で証明することが1番の課題だと弁護士から聞いています。業界を知らない移民局審査官に対して、目の前でパフォーマンスを披露する訳ではなく、書類だけで理路整然と無駄なく一つの疑問も生じることなく説明できるように作り上げるのが大変です。もちろんそのための業績があつてのことですが、今回感じたのは、審査基準を理解してやるべきことをしっかりやっておけば決して難しいものではないという事です。よく誤解されているのは、オリンピック選手のメダリストとか、映画のオスカー受賞とかでないといけないと言われているのですが、それはO1Bビザというカテゴリーで、私の場合はO1Aビザと言って違うカテゴリーで、実は毎年世界的に数万人に承認されていて最近アメリカビザが困難になりつつある中、注目されているビザだそうです。ただその書類の準備が本当に大変でした。

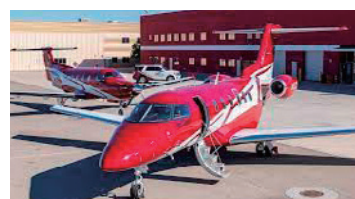
Q3.その大変だったと言う申請書類の準備はどのような流れだったのですか？

最初のステップとして、数名の弁護士に相談して相性の合う方を選ぶことから始めました。CVという学歴、受賞歴、研究プロジェクトなどのスキルや、長所、趣味や興味のあることなどを記載した個人プロフィールも含む書類を弁護士に見てもらいました。その書類だけで弁護士がビザ取得の可能性を見つけ出せるか否かがまず判断されます。

弁護士からは、O1ビザに必要な8つの条件の内最低3つは該当していると思われるので十分取得可能性があります。と回答があった時には喜んだのも束の間、CVにある業績や受賞歴の証拠集めをしておくようにという指示があり大変でした。表彰されたものを全部保管していたわけではなかったので大いに反省しました。幸い米国太平洋空軍からの表彰(写真①)は額に入れていただいていたので助かりました。弁護士からはこのレベルの表彰も今回のビザ取得の大きな要因だと言われています。又推薦状をできるだけ多くの人に書いていただけるように準備を始めておくようにとも言われて、その人選も大変でした。過去の私の業績を理解していて証明してくれる方々を探すために今までのネットワークを活用しましたが、人間関係を綺麗にしていってホントよかったと思いました。



写真①



Q4.アメリカでの就職先・スポンサーはどうやって見つけたのですか？

ビザ取得に際してアメリカ側でスポンサーが必要なのですが、これも過去のネットワークから生まれた賜物で、AirSmart社(ネバダ州ノースラスベガス空港)のTommy社長にスポンサーになっていただきました。実は私を嘉手納飛行クラブの教官として採用していただいたのが、Tommy社長の父Bobbie氏(2003年没)だったのです。当時の上司であったBobbie氏の遺志を引き継いで、仕事に励んできたことがこのような形で繋がりました。先日この後の事業について、Bobbie氏の墓前で報告することができました。(写真② 右Tommy社長)



写真②

Q5.取得までのスケジュールを教えてください

4月	2021年4月に弁護士を決定し書類の準備に取り掛かりました。今回の申請の鍵となるマスターインストラクターの(MCFI)再取得が必須とわかりその準備にも着手しました。
6月	全てMCFIの申請書類を作り上げ申請しました。O1ビザの審査基準も弁護士から説明を受けていたこともあり、O1ビザの申請書類の準備も同時に進めることができました。
8月	MCFIの承認を頂くことができました。弁護士からの指示で、米国パイロット業界団体のNAFI(全米飛行教官協会)から「私が米国に来ることに対して問題ない」という承認状を取得するように指示されました。私のMCFI資格取得を審査する団体であったことが幸いし、常に連絡をとっていたMCFIのプログラムディレクターに相談すると快諾していただきました。
9月	推薦状の依頼をようやく開始することができました。航空業界の著名人で私を推薦していただける方々を選ぶのは容易ではありませんでした。日米7名の方々から素晴らしい推薦状をいただくことができました。
12月	資料が揃い申請書類が完成しました。電話帳二冊分の厚さの申請書類が出来上がっていました。弁護士からは年明けには申請可能という連絡をいただきました。
1月	13日に申請したことを弁護士から連絡がありました。28日には移民局の審査に合格したことの連絡がありました。すぐに面接の申請をしたものの空きが少なく、面接日は約2ヶ月後の3月18日となりました。
3月	18日に在沖米国総領事館で面接を受け、その場でビザが承認されたことを伝えられました。準備から承認まで1年かかりました。

Q6.今後の活動について教えてください。

今後は日本の仕事を続けながら、アメリカで飛行教官とチャーターフライトのパイロットとして活動する予定です。エンブリリドル航空大学大学院の復学も決定したので修士号取得を目指します。以前従事していたDPE(試験官)業務にも復帰する予定です。業務以外の活動としては、多くのMCFIを育てていきたいですね。その方々がMCFI取得からO1ビザ取得に、アメリカでのパイロットキャリアを実現できるようにお手伝いしていきたいと考えています。アメリカでのキャリア実績を持って日本に帰国して教育証明を取得していただき、日本の航空業界にも貢献できる人材育成も目標の一つです。日米に関わらず、操縦教育がパイロット業界の根底を支えているという事を伝えながら、コミュニケーション能力やリーダーシップ力などを育成する事を教育目標にしています。その実現のため、学ぶ側も教える側も無料で使える日米共通の教育プラットフォームを構築し、日米の航空教育活動に微力ながら貢献できるような活動を心がけていくつもりです。

Q7.最後に、玉那覇さんのようにパイロットとしてアーティストビザ取得を目指している後輩にアドバイスををお願いします。

MCFIの取得をお勧めします。資格条件はインストラクター資格ですが、アメリカ以外や日本の教育証明保持者も該当します。MCFIの条件4つの中で1つにコミュニティー貢献がありますが、私はここが1番のポイントだと思っています。特定技能審査員の資格やJAPAでの活動も社会貢献の一環として高く評価されます。そのような貢献活動が認められれば結果はついてくると思います。活動が周りに認知され「こいつと働きたい」という評価が口コミとして広がり、ビザのスポンサーに認められるという結果につながると思います。先ほどもお話ししましたが、審査基準を意識して行動すれば決して難しいものではないですし、一人一人のコミュニティーへの貢献活動が国内の航空業界の裾の拡大と更なる発展に繋がると信じています。

ありがとうございました。今後のご活躍を期待しております。日米航空の発展に貢献しようとする玉那覇さんの出発点が沖縄支部であったことやこれまで20余年もの長きにわたり共に活動してきたことを光栄に思います。

玉那覇さんのサクセスストーリーは、沖縄のコミュニティラジオ局FMぎのわんの番組でも取材されています。又YouTubeでアーカイブされていますのでいつでもご覧になることができます。添付のQRコードから動画をご覧になれます。ぜひ我こそはという方はご覧になってアメリカの空へチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。



委員会活動報告 2022年度第1回RNAV講演会

ビジネス航空(BC)委員会

RNAV講演会は、RNAVの普及と基礎知識の付与を目的として、2013年ビジネス航空委員会内の勉強会からスタートしました。全3回／1年のシリーズを毎年実施しています。今回は、初めてオンラインと会場を合わせたハイブリッド形式となった6月26日(日)開催のRNAV講演会の概要を紹介します。

●講演1 「RNAV方式について」

東洋大学経営学部 准教授 中西 善信 様

講演は、私達パイロットがFMSやNav Data Baseについて学ぶ意義から始まり、飛行方式のコーディング・ルール(データベースの作り方)、さらにNAV Data Baseの詳細と使用上の注意に至るまで、FMSについて広くかつ学術的な視点を中心にお話いただきました。特にパスターミネーターの解説では、より実飛行に近いパイロット視点に立った説明をしていただきました。またJEPPESENなどデータハウスの作業について具体的な事例に基づき、パイロットが普段知ることのない背景も解説していただきました。本講義を通じて、改めてパイロットがコーディングやパスターミネーターを理解することの重要性を実感すると同時に、FMS やNAV Data Baseの限界を理解することの必要性も感じました。



中央の装置はWeb会議用カメラOWL

●講演2 「GPS・IFR通達について」

読売新聞東京本社編集局航空部 専任次長 柳井 研二 様

講演は、GPSの仕組みやパイロットに必要な基礎知識から始まりました。その後、サーキュラー「GPSを計器飛行方式に使用する運航の実施基準」の改正やGPSに関連する出来事の履歴を時系列で紹介した後に、サーキュラーの詳細な解説がありました。RAIM予測・MSASノータムの利用方法に加え、GPSの測位に疑義が生じた場合の対応方法やNDB経路をGPS単独で飛行する場合の必要事項など実効的な解説をしていただきました。

●追加講演(会場のみ)

本講演の後、会場参加者限定で「AW139フルフライトシミュレーターによる RNAV航行の実演／制作 (株)フジアビエーションシステムズ(協力 読売新聞社、航空管制協会)」を上映しました。本動画は、RNAV航行を飛行前準備から着陸まで解説付きで見られるもので、受講者からは「FMSの操作など具体的にRNAV航行をイメージできた」等の声が聞かれました。この動画はRNAV航行やMCCの理解に大きな効果が期待できることから、(株)フジアビエーションシステムズの協力により、次回以後の講演でも上映予定です。



ビジネス航空(BC)委員会では、今後もRNAV講演会に参加される皆様の知識と技量等の向上を目指し、更なる内容の充実や発展に努めてまいります。

自家用操縦士の技量維持 (特定操縦技能審査と航空安全講習会)について

教育文化委員会 大澤 一郎

2021Winter号では、航空安全講習会の生い立ちについてお話をいたしましたので、今回は、特定操縦技能審査制度について解説をいたします。

自家用操縦士の技量維持に関する調査委員会設置

前回、ご説明をした航空安全講習会の制度が始まった2003年は小型機事故件数が前年度比半減しましたが、その後は増加傾向となり2004、2005年度は年間20件程度が発生しています。このような状況の中2006年3月、航空・鉄道事故調査委員会から自家用操縦士に定期的な非常操作訓練実施に仕組みを検討するように航空局へ建議がなされました。そのために自家用操縦士等の技量維持方策を見直すこととし、「自家用操縦士の技量維持に関する調査委員会」を2007年度に設置し、JAPAが事務局になりました。この委員会には、JAPA及び日本飛行連盟、AOPA-JAPAN、日本滑空協会、日本ヘリコプター協議会の5団体(技量維持連絡会)からも委員を派遣しました。委員会では、通達「国空乗第2077号」発出以降、自家用操縦士の技量維持の現状や事故傾向などの把握・分析を行い、必要な方策の検証や討議が行われ2008年度末に「自家用操縦士の技量維持に関する調査報告書」が提出されました。報告書では操縦士が、飛行と座学による「フライトレビュー」定期的に受講する必要性と、それを行うための課題及び対応策の提言が出されました。これが、現行の特定技能審査制度の原点となりました。

操縦士に係る技能証明制度等のあり方検討会と法改正

2009年度には有識者を招聘し、航空局がMPLを含む新たな技能証明制度の導入、技能証明取得後の技量管理制度のあり方について検討会を発足し「自家用操縦士の技量維持に関する調査委員会」の提言を含め、検討が行われました。

これらの過程を踏まえ、2011年に「航空法の一部を改正する法律」が公布され、航空法第71条の3(特定操縦技能の審査等)及び4(特定操縦技能審査に合格していない者が行う操縦の練習における前条の規定による適用除外)が追加されました。

法改正における経過措置、通達「国空乗第2077号」の位置づけと講習テーマ

特定操縦技能の審査制度により、2014年4月1日からは特定操縦技能の審査に合格していなければ操縦等を行うことが出来なくなりましたが、これに先だち、通達「国空航第799号(2012.03.29)特定操縦技能審査実施要領」が発出されました。その中で「国空乗第2077号」による航空安全講習会を受講した者は、受講日から2年間に行われる特定操縦技能審査では、実施細則に定める口述審査のうち「最近の変更点」と「一般知識」は講習修了書(受講証明シール)を提示することで免除されることになりました。航空安全講習会では開始当初から受講者に受講証明を行い、講習会のシラバスにおいても「最近の変更点」、「一般知識」に関連するテーマを取り上げているのはこのためです。

今年度の航空安全講習会

昨今は、Tokyo NaR2 PCAを含む特別管制区への無許可侵入や大型機とのTCAS RA事象が発生していることから、航空局担当部署とも連携し、同様な事象の再発防止のための啓発も航空安全講習会の場で行っています。今年度は、既に埼玉及び熊本で航空安全講習会を開催しています。今後は7月東京(新橋)、9月大阪(八尾)、10月沖縄(那覇)、その後1～2回は首都圏での開催を計画しています。講義内容などは、JAPA ホームページなどで適宜お知らせいたしますのでご確認の上でご参加の検討をお願いいたします。



航空安全講習会6月熊本会場の様子(45名受講)

～ 各 表 彰 報 告 ～

航空関係事業の発展に尽力し、その功績が顕著であり、且つ各職種においての成績が優秀な会員の方を協会より推薦させて頂いております。受賞者の皆さま、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

春の黄綬褒章

小福川 祐二 様 (日本航空)

佐藤 俊一 様 (全日本空輸)

林 譲治 様 (ジェイエア)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
伝達式及び皇居への拝謁は中止となりました。



会長奨励賞

上田 拓未 様 (法政大学)

野崎 諒太 様 (東海大学)

関口 寛教 様 (航大第 65 回生Ⅳ期)

田立 脩一朗 様 (桜美林大学)

井村 勇斗 様 (崇城大学)

※大学・大学の操縦士養成課程の卒業生の成績優秀者に対しJAPA会長が行う表彰

協会長表彰

石井 清 様 (JAPA 東日本支部)

後藤 達也 様 (全日本空輸)

大矢 英嗣 様 (全日本空輸)

奥本 進介 様 (新日本ヘリコプター)

山口 栄伸 様 (全日本空輸)

藤田 茂人 様 (JAPA 中部支部)

※航空界に貢献された会員に対しJAPA会長が行う表彰



6 月 17 日 協会長表彰授与式

会員 福利厚生 のご紹介

会員福利厚生に新たにサービスが追加されました。

大丸松坂屋百貨店 お得意様ゴールドカード

更に詳細は同封の
案内をご覧ください。

お得意様ならではのサービス・特典を
「大丸松坂屋お得意様ゴールドカード」で
お届けします。



オンライン
入会
は
こちら



■年会費

本会員様／11,000円(税込)
家族会員様／1,100円(税込)※
※1枚につき

お申し込みいただける方

●満20歳以上で安定した収入があり、社会的に信用を有する方
●入会申込書にご記入、またはオンライン申込フォーマットにご入力いただいた「ご自宅」と「勤務先」に電話連絡が可能なる方
●「会員規約」等をご自身でお読みいただいたうえで、内容をご承認いただける方
●日本国内にお住まいの方で、申込書の所定事項を日本語で、自筆でご記入(またはオンライン申込フォーマットにご入力)いただける方

※本条件は目安です。審査によりご希望に添えない場合がございます。またご記入の正確性、審査の基準および内容につきましてはお答えいたしかねます。

◎大丸・松坂屋でのお買い物が最高10%OFF。
1年間のご利用実績に応じて、翌年度の割引率が変わります。

1年間のご利用実績(税込)	翌年1年間のご優待率
70万円以上	10%
30万円以上 70万円未満	8%
30万円未満	5%

初年度の
割引率
10%

※特価品、食品・レストランは、ご利用実績にかかわらず1%のご優待。
その他除外品がございます。詳しくは係員にお尋ねください。

※大丸福岡天神店での買い物は大丸・松坂屋のポイントを100円(本体価格)につき1ポイントお付けします。大丸・松坂屋の買い物で1ポイント=1円としてご利用いただけます。

◎あらゆるシーンのお買い物で、QIRA[キラ]ポイント進呈。

大丸・松坂屋をはじめ、国内外のVisa加盟店でのクレジットご利用で、QIRAポイントを100円(税込)につき1ポイントお付けします。QIRAポイントは、大丸・松坂屋のポイントははじめ、さまざまな提携ポイントやモノコトに移行・交換できます。

※ポイントは、月度締め合計額に対してお付けします。
※ポイントは、1,000ポイントから移行・交換可能です。(専用サイトでのお手続きが必要です)

◎各種サービスも充実。

国内主要空港ラウンジのご利用など、さまざまなサービスがございます。

◎最高5,000万円の海外・国内旅行傷害保険(一部は利用付帯)

2021年1月16日より、手荷物に関する補償や海外旅行傷害保険の家族特約も付き、より充実しました。

1年間のクレジットご利用額が150万円以上(税込)のお客様に、5,000 QIRA[キラ]ポイントプレゼント

大丸・松坂屋をはじめ、Visa加盟店でのご利用分も対象です。一部対象外となるご利用がございます。

※本ご案内記載の内容は2022年3月現在の内容です。変更となる場合がございますのであらかじめご了承ください。

日産レンタカー

◎《日本航空機操縦士協会》会員様特別料金

24時間迄使用料金				
	クラス	代表車種	一般料金	会員様特別料金
乗用車	P1	マーチ	8,700 ⇨	6,000
	P2	ノート	9,400 ⇨	6,200
	PH2	ノートe-POWER	10,800 ⇨	6,500
	P4	ラティオ	10,400 ⇨	6,500
	P5	ウイングロード	11,700 ⇨	6,800
EV&ワゴン	RV1	エクストレイル	17,200 ⇨	10,200
	W4	セレナ8人乗り	21,200 ⇨	11,600
	W6	キャラバン10人乗り	27,800 ⇨	14,800
	W6	エルブランド8人乗り	27,800 ⇨	14,800
商用車	C1	パネットバン	11,900 ⇨	7,300
	C2	キャラバン	16,200 ⇨	8,900
	T2	アトラス2t	14,900 ⇨	8,600

※別途10%の消費税がかかります。

※上記以外にも車種は、ご用意してございます。また店舗によっては、ご用意できない車種もございます。

※4WD料金、他オプション(チェーン、スタッドレスタイヤ等)は料金に含まれません。

※当プランは免責補償料、NAS補償料を含んでいます。

ETCカードの貸出も無料で行っています。
(ETCカードは一部貸出できない営業所があります。)

大型保険補償付

対人補償:無制限 対物補償:2000万円
人身傷害1人当たり3000万円



ノートe-POWER 新登場

充電が必要ない電気自動車の全く新しいカタチ

●ご予約・お問合せは日本航空機操縦士協会の会員である旨及び会員コード00181279と伝えてください。

全国予約センター 0120-00-1767(平日8:00~20:00 土・日・祝日9:00~18:00)

ご相談等問い合わせ 法人営業部 080-3596-8615 千葉

会員

福利厚生のご案内

JAPAにご入会頂いた会員の皆様には書籍やセミナーの割引のほかにも
こんな特典があるのはご存じですか？
今回はそんな会員の皆様にお得な福利厚生をご紹介します！



- 大丸松坂屋百貨店お得意様ゴールドカード
- 鳳文書林出版販売 発行書籍 10%割引
- 各空港内売店(一部) 5%割引
- 高島屋(一部) 5%割引



- 協会顧問弁護士へのご相談



- 羽田空港第1第2、国際線旅客ターミナル
東京エアポートレストラン 運営店舗
- 銀座ライオン羽田空港マーケットプレイス店
ブラッセリー 銀座ライオン羽田空港店 現金支払時10%割引



- 日産レンタカー
- タイムズカーレンタル
- オリックスレンタカー
- バジェットレンタカー沖縄



- リーガロイヤルホテルグループ
- ゴルフカントリークラブ

その他宿泊施設 等

各施設のご利用方法や詳細はJAPAホームページをご参照ください。
<https://www.japa.or.jp/member/tokuten>

今後のJAPAセミナー開催予定

セミナータイトル	開催日 / 開催地区
Fly with us ～空の仕事ワークショップ～	10月《東京》開催予定
	11月《愛知》開催予定
	12月《大阪》開催予定
	2023年2月《沖縄》開催予定
	2023年2月《宮城》開催予定
	2023年3月《新潟》開催予定
ATS シンポジウム	10月29日（土）オンライン開催予定
航空気象シンポジウム	11月5日（土）現地開催／オンライン開催予定
RNAV 講演会	《第2回》10月開催予定
	《第3回》2023年1月開催予定
小型航空機セーフティセミナー	2023年2月開催予定
TEM/CRM セミナー	《基礎コース》12月開催予定
	《SRM コース》9月 / 2023年2月開催予定
航空安全講習会	9月《大阪》開催予定
	10月《沖縄》開催予定

フォトコンテスト開催のお知らせ

今年も第2回JAPAフォトコンテスト「私の好きな航空機」を開催します。

募集開始は9月頃を予定しています。

詳細はJAPAホームページをご覧ください。

教育文化委員会



JAPAメールマガジン配信中!



《登録方法》

QRコードから空メールを送信して頂くと、メール送信サービス会社より登録用フォームのURLが届きますので、フォームに必要事項を入力して登録してください。



ご登録はこちら



JAPA会員ページへの登録はお済みですか?

JAPA会員ページではAIM-JAPANをはじめとする便利な電子書籍の閲覧や、登録住所の変更を行なう事が出来ます。まだ初期登録がお済み出ない方は是非、お手続きくださいませ。

入会のご案内

当協会は現在約6,700名の会員が所属しており、エアライン、航空事業会社、官公庁そして自家用操縦士等の会員により構成されております。皆様も航空業界の仲間たちと共に活動しませんか?

◆入会方法

1. JAPAホームページ入会申込書請求フォームにて入会申込書をご請求願います。
2. 当協会より入会申込書を送付させていただきます。
3. 入会申込書に必要事項を記載の上、ご返送ください。
会員資格・特典・会費等については別途ホームページをご参照ください。

日本航空機操縦士協会について
詳しくは JAPA ホームページへ

www.japa.or.jp

JAPA

検索

パイロット

Vol. 21

2022 Summer

発行

公益社団法人 日本航空機操縦士協会
(Japan Aircraft Pilot Association)

〒105-0004 東京都港区新橋 5-3 4-3

TEL 03-6809-2902 (代) FAX 03-3434-7774

JAPAホームページ URL <https://www.japa.or.jp/>

E-mail: japa@japa.or.jp

禁無断転載

落丁・乱丁本がありましたらお取替えいたします

編集 広報・企画委員会

発行 池田 晃二

印刷 星光社印刷株式会社